

日赤おおつ

なから



〔雨情〕 作:今村真治(検査部)

地域医療支援病院・救命救急センター  
地域がん診療拠点病院・基幹災害医療センター

大津赤十字病院

〒520-8511 大津市長等1-1-35  
TEL.077-522-4131 FAX.077-522-4385  
http://www.otsu.jrc.or.jp

## 紹介状をお持ち下さい

大津赤十字病院は地域医療支援病院として、地域の開業医の先生、病院と連携し高度で専門的な医療の提供をいたします。

日常の  
健康管理は  
かかりつけの  
先生で

専門的治療は  
大津  
赤十字病院へ

症状が  
安定したら、  
再びかかり  
つけの先生へ

※紹介状をお持ちでない初診の患者さまは、診療費の他に初診時特定療養費のご負担が必要です。(緊急やむをえない場合は除きます)

※患者さまのご自宅近くの医院・診療所などへの紹介につきましてはご希望がございましたら、遠慮なくご相談下さい。

## 理念

私たちは「人道・博愛」の赤十字精神にのっとり、患者さまの人権と意志を尊重して、最善の医療を提供し、地域の人々の健康増進に務めます。

## 基本方針

- 1 患者さまと共にあゆむ医療を心がけ、個人情報保護法に基づくプライバシーと権利を大切にします。
- 2 医療の質の向上に努め、安全で高度な医療を提供します。
- 3 救急医療に積極的に取り組み、災害救護に貢献します。
- 4 地域の中核病院として他の医療機関との連携を推進します。
- 5 研修・研鑽を積み、次代を担う医療従事者の育成に努めます。

こんな症状には**要チェック!**

## マンモグラフィー併用 乳癌検診のすすめ (乳癌早期発見のために)



第二外科部長 小川博暉

すでに皆様が御承知のように、西暦2000年には女性の癌の中で乳癌に罹患する人の数が肺がんや胃がん、大腸がんを抜いて全ての癌の中で第1位となり、かつ年々その数が着実に増加してきています。この事態に対して平成15年度よりマンモグラフィー(乳房X線撮影)と視触診を併用する乳癌検診が全国の自治体で広く実施され、非常に小さな乳癌が発見されるようになってきました。マンモグラフィー併用検診ではX線写真から微細な乳腺の変化を読み取り、触診では全く感知できない径5mm前後の早期癌を発見する事が可能となりましたが、ごく一部の癌ではX線写真でも認識できず触診にて腫瘍を指摘される例もありますので視触診併用検診が実施されています。現在特に乳房に異常を感じていない方でも40歳を過ぎましたら、この検診を最大限に利用して外科的な治療で治癒させることの出来る早期癌の段階で発見できるよう、努力して受診の機会を作って下さい。しかし家庭や仕事の都合で受診が難しい方には、次善の乳癌発見方法として自己乳房検診法を推奨します。乳癌は唯一、体表面から触知できる癌ですから、自分の乳房を定期的に視触診する事により小さな癌を自分で発見できます。入浴時または就寝時などに乳房を自分の目と指先を用いて硬い腫瘍、何となく限局的に固い部分やシコリ、乳房皮膚の歪みや陥没、乳頭からの分泌物の有無などを2~3ヶ月に一度定期的に観察して下さい。乳房の触診に際しては示指、中指、環指の腹の部分を用い右乳房は左手で、左は右手で、軽く乳房を圧迫しながら全体を万遍無く触診し、絶対に乳房をつままないのが要点です。この方法により今までと異なった感じ、所見があれば外科外来を受診してください。「継続は力なり」です。乳癌の早期発見のためにマンモグラフィー併用検診の受診、または自己検診を根気良く続けてください。

## 手の外科とは



形成外科部長 石川浩三

**皆** さんは手の外科をご存知でしょうか。名前のとおり手を専門領域とする外科のことです。実は日本でも手の外科学会というものがありすでに来年で50周年を迎えます。手の内科はなく外科しかないのです。しかし、外科だからといって、手術しかないというわけではありません。治療には薬や注射やギプス固定あるいはリハビリもあります。扱う疾患は、手や指の外傷（骨折・脱臼・腱断裂・神経血管損傷・切断・熱傷）、腱鞘炎、関節炎、腫瘍、血行障害（閉塞性動脈硬化症・レイノー病）、神経障害、拘縮、先天異常等多彩です。とにかく手に関するものは何でも取り扱います。

体の中でほんのわずかの部分である手がなぜに独立して取り上げられるかと申しますと、手は顔に次いで外見を気にする部位であることと、精密な作業ができるように極めて複雑な構造をしているからです。したがって、その治療に当たっては、細かい構造とその動き（機能解剖と呼びます）を熟知して、しかも、細かい組織を修理再建（手術）できる技術が必要です。たとえば、切断された指を再接着するためには、指の構造物をそれぞれすべてくっつけなければなりません。神経や血管は通常で外径1mm、細い場合には0.5mm以下のものを縫合します。これらは肉眼では縫えないので、顕微鏡を用います（顕微鏡を用いた手術をマイクロサージャリーといいます）。私ども形成外科グループはこれら専門的知識と技術の向上

に日々努力いたしております。折しも、今年4月の手の外科学会総会で専門医制度が発足する予定です。そうなれば本院形成外科から複数の手の外科専門医が生まれる見込みです。

手でお困りの方は、手の外科専門医に相談されることをお勧めいたします。



## 五月病って…？

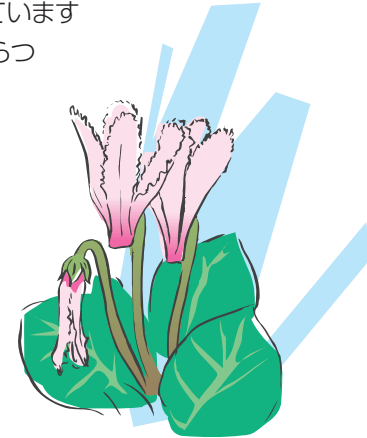
美しく咲き誇った桜の花も散り、新緑が眩しい季節となりました。

四月に進学や就職をした人は学校や会社にも慣れる頃ですが、その一方で、ゴールデンウィークを過ぎた頃から勉強や仕事に身が入らず、強い疲労やストレスを感じるようになる人もあります。一般的に「五月病」といわれていますが、これは医学用語ではなく、元来は大学入学後の学生が五月に入った頃から無気力になる事からついた病名のようなのです。

新入生や新入社員、また五月に限った病気ではなく、環境が変わった時や新しい人間関係が生まれた時などに起こりうる病気なのです。

ストレスを貯めないためにも、スポーツや音楽鑑賞、読書など、自分に合った解消法を見つけることが大切です。神経をリラックスさせるタマネギやニラ、シソ、レタス、ゴマなどを使った美味しい料理を食べて、「五月病」を吹き飛ばしましょう！

（インターネット「食育大事典」特集：役立つ情報 参照）

泌尿器科部長  
小倉啓司

## 尿もれ・頻尿

**オ** シッコに関する悩みは、「歳のせいだから仕方がない」とか、あるいは、人前で口にすることが恥ずかしいとかのため、以前から病院で診察を受ける方は多くありませんでした。しかし最近、わが国の40歳以上の男女を対象とした調査報告によれば、7人に1人の割合で何らかの排尿に関する問題を抱えていることがわかってきました。近頃ではテレビのCMで頻尿の治療薬が宣伝される時代になってきています。

尿もれは中高年の女性に多く、大きく分けると2つのタイプがあります。ひとつめは、せき・くしゃみ・笑う・重いものを持ち上げる動作などで、お腹に強い力がかかって膀胱が圧迫され、尿が

漏れてしまうタイプで、「腹圧性尿失禁」といいます。原因は骨盤内臓器（子宮・膀胱・直腸など）を支えている筋肉（骨盤底筋）が、加齢・肥満・出産などで弱くなるため、起こります。治療としては、弱くなった筋肉を強くする骨盤底筋体操という体操療法や薬物療法があります。これでよくなる高度な方は、短期間の入院でできる比較的簡単な手術を行うことによって、尿もれを治療することができます。

もうひとつのタイプは、もともとオシッコに近い（頻尿）方の場合、オシッコがしなくなると、トイレに間に合わなくてもれてしまう「切迫性尿失禁」です。原因は様々ですが、膀胱の収縮が亢進している「過活動膀胱」という状態によって、膀胱にためる尿の量が減るために起こります。このタイプの治療法としては、日常生活に注意をすること（適度な水分の摂取など）や、薬物療法で治すことが可能です。

いっぽう中高年の男性に多いのは、前立腺（精液の液体成分を造っている臓器）の病気によるものです。いちばん多いのが、前立腺肥大症（良性の腫大）で、とくに夜間の頻尿が特徴です。現在では、かなり効果の高い薬物治療や内視鏡手術があります。いずれにしても、症状のある方は、気軽に泌尿器科の専門医にご相談してみてください。